



自立活動だより



ーバリアフリー展2017レポートー

高等部普通課程 野村先生報告

○バリアフリー2017(4月20日(木)～22日(土)インテックス大阪)

毎年この時期に開催される総合福祉展です。福祉車両、車椅子、杖、介護食、食器、住宅改造、リハビリ関係など数多くの展示とこれらに関わる講演などがありました。今回、得た情報の一部を紹介させていただきます。

☆岡部洋食器(<http://www.ginzado.ne.jp/~okabe/>)

チタン製の超軽量スプーン、口のあたりがソフトなシリコンスプーン、スプーン握り部分を太くするためのシリコンスポンジハンドルなどの展示がありました。(資料あり)

株式会社リッチェル Richell Corporation



カップにとりつけてストローを挿して使います。倒れてもこぼれませんでした。



握りを太くし握りやすくします。持った瞬間は外れるのではと思うほど緩い感じがしましたが握りこむことで滑らなくなります。



ペットボトルにかぶせ、ストローを挿して使います。倒してもほとんどこぼれませんでした。



左右の写真は、食器関係のパンフレットの一部分です



※上記の会社のホームページのライフケア用品のページで見ることができます。(資料あり)



WHILL (株) が開発した
パーソナルモビリティ「WHILL Model A」
砂利道でも操作が容易



室内で小回りのきく
6輪車椅子



折りたたんだ車椅子を
リフトでトランクに積
み込める自動車



手動車椅子ごと乗り、
電動車椅子の感覚が試
せる。
(台の上にあるのは操
作用のスイッチ)



視線だけで操作のできる
パソコン(資料あり)

右の写真は視
線入力のパン
フレットの一
部です。



※食器関係、視線入力、操作スイッチ等のパンフレットをご覧になりたい方は、野村先生(高等部普通課程)にお問い合わせください。(※裏面もご覧ください。)

○ワークショップ

ワークショップ(展示されている団体の方から直接話を聞くことのできる場です)今回は以下の二つのワークショップに参加してきました。

1. (公社)大阪府理学療法士会

「移乗動作の介護方法」

～重症度の違いによる介護方法と福祉機器の選択～

理学療法士・介護支援専門員

やわら訪問看護ステーション・やわらケアサポート 所長 山崎 貴峰氏

○理学療法士の視点による正常な移乗動作の介護方法について

- ① 正常な移乗動作のメカニズム
- ② 介護者の身体の使い方
- ③ 福祉機器導入のポイント

※介助にあたっての自身のかまえ、相手との位置どりなど基本的な内容でした。(資料あり)

2. (一社)日本支援技術協会

「学習に困難のある子どものIT活用」

日本マイクロソフト(株) プリンシパルアドバイザー 大島 友子氏

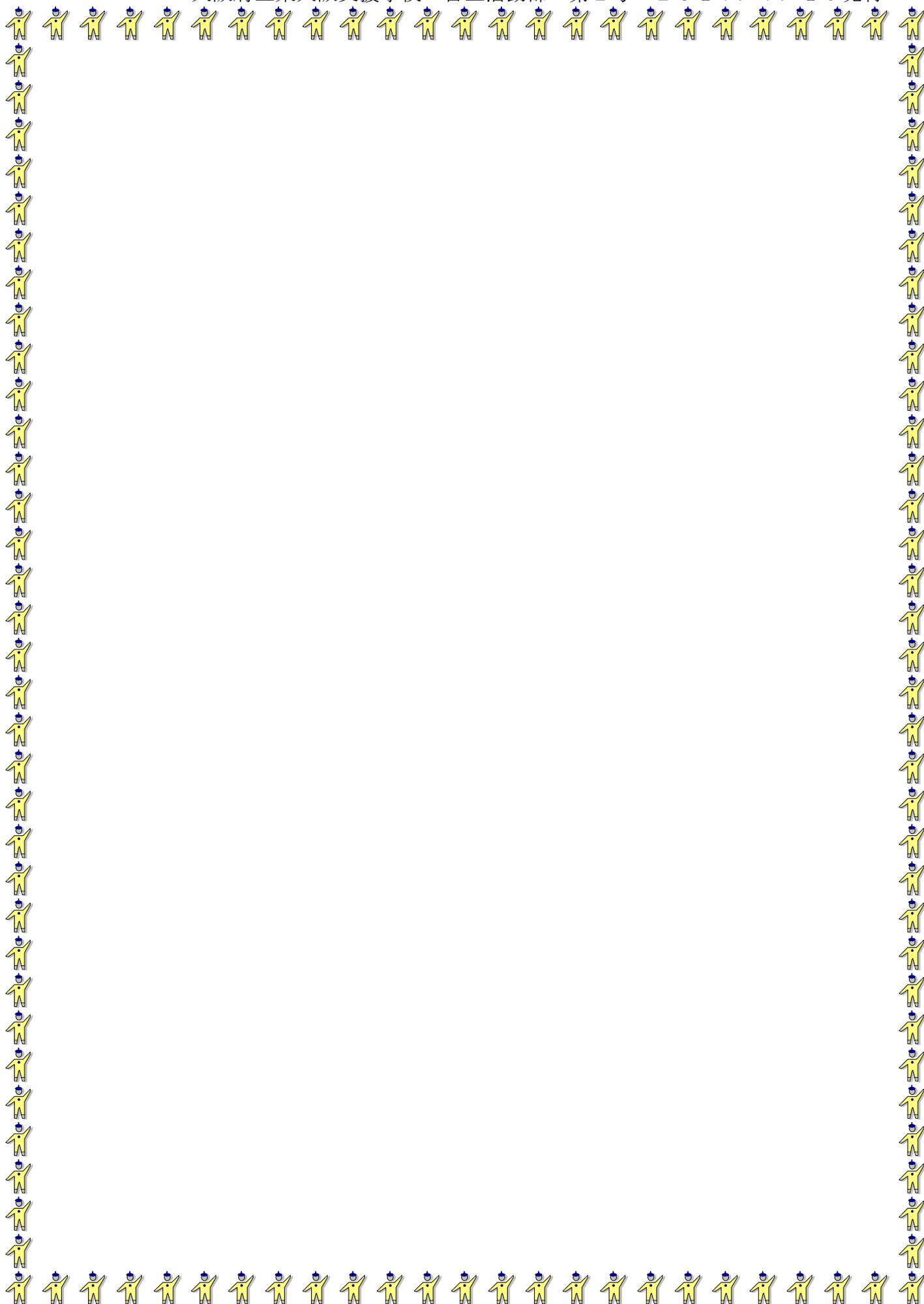
教科書のページをめくるのが難しい、先生の声が聞こえづらいといった身体的な困難や、読むことに時間がかかる、ひらがなを覚えるのが苦手など学習障がいや発達障がいと思える困難など、学習をする上で様々な困難がある子どもに、ITが役立てる場面があります。ITを使ったちょっとした工夫や最新情報、事例についての話でした。

工夫の事例として、

- ① 紙ベースのものをコピー機で拡大したり、切り貼りしてレイアウトを変更する。
- ② 活字をタブレットのカメラで読み込み、デジタルデータ化すると文字の種類、大きさ、文字色、レイアウト、背景色の変更が容易になります。又、読み上げアプリを使い読み上げることさせることもできるようになります。タブレット用のアプリとして「Office Lens」、「タッチ&リード」があります。Word 文書を読み上げさせるためのソフトには「和太鼓」「Word Talker」があります。インターネット環境があればオンライン版を利用することができるようです。最近、話題になっているトランスレイター(翻訳)機能を活用する(翻訳は他の言語に訳するためのものですが、日本語を日本語にするという設定にする)ことで音声言語をテキストで表示させることができます。
- ③ 既存のデジタル教科書には、マルチメディアデージー(専用のアプリが必要です)、アクセスリーディングと呼ばれるものがあります。この二つについては、申請すれば無償で利用することができます。デージーについては、作成用のソフトがあります。

※日々、進化する IT 機器を障がいの状態に応じ、うまく使えば子どもたちの可能性を引き出すことができます。

※毎年、4月中旬頃に開催されています。結構、学校や日常生活で使えそうな情報を得ることができる場です。一度足を運ばれてはいかががでしょうか。





①(公社)大阪府理学療法士会

「移乗動作の介護方法」

～重症度の違いによる介護方法と福祉機器の選択～

理学療法士・介護支援専門員

やわら訪問看護ステーション・やわらケアサポート 所長 山崎 貴峰氏

②(一社)日本支援技術協会

「学習に困難のある子どものIT活用」